

中小企業景況調査報告書

平成 28 年 10 ～ 12 月期 実績
平成 29 年 1 ～ 3 月期 見通し

始良市商工会

(平成 28 年 12 月発行)

この調査は、商工会地域の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速・的確に収集して、全国商工会連合会と連携し、全国一斉に実施しているものです。

この報告書の中で、用いられている D・I 指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好 調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不 振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	--	---	---	--

1. 調査対象期間 平成 28 年 10～12 月期を対象とし、調査時点は平成 28 年 6 月 1 日とした。
平成 29 年 1～3 月期は予測値となる。
2. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
3. 調査対象商工会 始良市商工会
4. 回答企業 対象企業 15 企業（※始良市の 15 企業を基に指数を表示してあり、あくまでも参考指数と理解下さい。）
製造業：3 企業 建設業：2 企業 小売業：4 企業 サービス業：6 企業

県内産業別業況 DI

		製造業		建設業		小売業		サービス業	
対前年 同月比	28 年 4 月～6 月期		66.6		▲50.0		▲25.0		▲33.3
	28 年 7 月～9 月期		66.6		▲50.0		▲25.0		▲33.3
	28 年 10 月～12 月期		0.0		50.0		▲50.0		▲66.6
	来期見通し(1～3 月期)		0.0		50.0		▲50.0		▲50.0

総合（業況）

前年同期（平成 27 年 10 月～12 月期）と比較した今期（平成 28 年 10 月～12 月期）の業況は、製造業▲0.0、建設業 50.0、小売業▲50.0、サービス業▲66.6 となった。業況は前年同期と比較して、建設業で改善、製造業でまあまあ、小売業・サービス業では悪化の方向に進んでいる。県内では、全業種において、台風被害の影響が窺えた。製造業においては、業況の改善が見られるものの受注の停滞・原材料の価格上昇が経営を圧迫している様子が見られ、建設業では、依然として官公需要の動きが鈍く、小売業では、購買力の低下・他地域への流出が続いている。サービス業においては、天候による材料仕入単価の上昇などが業況悪化の一因となっている様子が窺える。また、全業種において従業員（熟練技術者）の確保難・人件費の上昇など人材確保に関する影響がみられ、少子高齢化による購買力の低下等が重なり業況の改善に至っておらず、小規模事業者を取り巻く環境は依然として厳しい状況である。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 3 企業

調査対象企業内訳：食料品(1)，窯業・土石製品(1)，衣類・その他繊維製品

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値
28年4月～6月期		0.0		66.6		33.3		66.6
28年7月～9月期		0.0		66.6		33.3		66.6
28年10月～12月期		0.0		0.0		0.0		0.0
来期見通し(1～3月期)		▲33.3		▲33.3		0.0		0.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・人件費が増加し加工単価が不変であるため、経営が厳しい。ビジネスモデルの変更が必要。

経営上の問題点

- ・製品(加工)単価の低下・上昇難、生産設備の不足・老朽化、が上昇を占めている。また、人件費の増加、原材料費・人件費以外の経費の増加を問題とする企業もある。

【建設業】 有効回答数 2 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(1)，設備工事業(1)

	完成工事額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値
28年4月～6月期		▲50.0		0.0		0.0		▲50.0
28年7月～9月期		▲50.0		0.0		0.0		▲50.0
28年10月～12月期		0.0		50.0		0.0		50.0
来期見通し(1～3月期)		0.0		▲50.0		0.0		50.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・特になし

経営上の問題点

- ・熟練技術者の確保難、下請け業者の確保難が上位を占め。次に下請け価格の上昇、取引条件の悪化、民間常用の停滞を指摘している。

【小売業】 有効回答数 4 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(2)，織物・衣服・身の回り品(1)，その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値
28年4月～6月期		▲25.0		▲50.0		▲25.0		▲25.0
28年7月～9月期		▲25.0		▲50.0		▲25.0		▲25.0
28年10月～12月期		▲50.0		▲50.0		▲50.0		▲50.0
来期見通し(1～3月期)		▲50.0		▲50.0		▲50.0		▲50.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・大型店出店による影響が懸念される。
- ・自店の後継者が育っていない。需要・販売の低下、消費者ニーズの変化への対応力が不足と感じているが、新しく一歩を踏み出せないのが現状。

経営上の問題点

- ・大型店・中型店の進出による競争の激化、購買力の他地域への流出、消費者ニーズの変化の対応等が上位を占め、次に需要の停滞、同業者の進出、販売単価の低下・上昇等を問題点として企業

もある。

【サービス業】 有効回答数 6 企業

調査対象企業内訳：洗濯・理美容業（4）、飲食店（2）

	売上額		採算		資金繰り		業況	
28年4月～6月期	☔	▲50.0	☔	▲100	☔	▲33.3	☔	▲33.3
28年7月～9月期	☔	▲50.0	☔	▲100	☔	▲33.3	☔	▲33.3
28年10月～12月期	☔	▲33.3	☔	▲50.0	☔	▲66.6	☔	▲66.6
来期見通し(1～3月期)	☁	0.0	☔	▲50.0	☔	▲33.3	☔	▲50.0

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・売上が伸びないのに人件費が増、収益が減。その為、内部保留が増やせず設備投資も慎重にならざるを得ない。これからは忘年会シーズンで売上は伸びるが、収益は昨年より減と予想。
- ・人材不足で、募集を行っても全く来ない。結果半年確保されていない。また、異常な暖かさで需要が全くよめない。
- ・既存のお客様により良いサービスを行い、新メニューで更に魅力的な店とっていただけるように、アプローチしていかなければならないと思っている。地域に集まって頂けるようなイベントもしていただきたい。
- ・台風や雨が続いたことで野菜の仕入が3倍になり、採算が合わない。

経営上の問題点

- ・従業員の確保難、大型店・中型店の進出による競争の激化、人件費の増加、新規参入業者の増加、材料等仕入単価の上昇等が上位を占め、また、店舗施設の老朽化、需要の停滞、利用料金の低下・上昇等を問題点として企業もある。

《参考となるその他の景況から》

2016年12月14日
日本銀行鹿児島支店

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかに回復しつつある。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、一部に弱い動きがみられるものの、底堅く推移している。観光は、熊本地震を受けた各種観光支援策が実施されるもとで回復しつつある。住宅投資および公共投資は、持ち直している。

生産は、下げ止まっている。

企業部門の動向を短観(12月<鹿児島・宮崎両県集計分>)でみると、景況感は、良好な状態を維持している。設備投資は、一部に弱めの動きもみられるが、前向きなスタンスが維持されている。また、人手不足感は引き続き強い。

こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は改善している。

【各論】

1. 個人消費

- 乗用車新車登録台数(含む軽自動車)は、前年を上回った。百貨店・スーパー販売額は、前年を下回って推移している。家電販売額は、前年を上回った。

2. 観光

- 主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を下回った。

3. 公共投資

- 公共工事請負金額は、前年を下回った。

4. 住宅投資

- 新設住宅着工戸数は、貸家を中心に前年を上回った。

5. 生産

- 鉱工業生産指数(季節調整済)は、電子部品・デバイスなどを中心に前月を下回った。

6. 雇用環境

- 求人数は増加基調、求職者数は減少基調を続けており、有効求人倍率(季節調整済)は、高水準で推移している。
現金給与総額は、前年を上回った。
常用労働者数は、減少を続けている。

7. 物価

- 消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)は、前年を下回って推移している。

8. 金融面

- 預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。
貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。
企業倒産件数は、低水準で推移している。